

# 留学生のための学外活動（平成14年度）

別府大学文学部 国文学科

松田美香

## I 日本語教育の現場から

本学には現在500名近い留学生在籍しているが、その日本語の能力には大きな差がある。そこで、文学部では平成13年度から国文学科に日本語・日本文化コース日本語課程（以降、本課程と呼ぶ）を設置した。年度始めのプレースメントテストの結果、日本語能力不足と判定された留学生は、半年～1年間ここで集中的な日本語教育を受けることになる。語学の勉強法として有効ではあるが、留学生にとって月～金の数十時間を同じ教室に座りつづけなければならないこと、そしてその教室の大半が狭いことなどについては問題があった。このような環境不備を補うために、毎週1時限行っている「日本事情」の延長線上の活動として、学外で日本語と地域を学ぶ活動を数度行ってきた。今回は平成14年度の活動を振り返ってみ



たい。

## II 大分市中心部オリエンテーリング～道聞き～

オリエンテーリング（orienteering）とは、地図と磁石を使って目的地に着くことを競うゲームで

あるが、今回は磁石を使わずに、町で出会った人々に道を尋ねること（道聞き）で目的地に向かうゲームにした。このゲームは日本語教育の活動としては珍しくない。この計画の目的は、まず第1に生活に必要な建物の場所を聞いて確認することができるようにすること、第2に教室の束縛から解かれ、楽しいひとときを過ごし、日本の地域や人や文化を理解することである。

さて、このオリエンテーリングは平成14（2002）年5月23日（木）9：00～14：30の予定で、大分市の中心部、aコンパルホール内「大分市民図書館」前（中庭）、bふないアクアパーク、c大手公園（大分県庁西）、dセントラルプラザ映画館前、e大分中央警察署玄関前、fベスト電器コンピュータ館（中央商店街セントポルタ内）、g大分市役所庭（Art Plaza 隣り）をそれぞれのグループごとの順番で回り、各地点で待機する日本語課程の先生方から認め印をもらい、最後はすべてのグループがgの市役所庭でゴールした。

準備としては、事前にくじ引きスタイルの抽選を行い、同じ学科の人同士5、6名ずつを1グループとして23グループに分けた。学科を同じにしたのは4限目の講義に間に合うようにしたためであるが、後述するように実際にはあまりうまくいかなかった。次に現地への交通手段だが、学内バス運行の都合上、約150名を一度に運ぶことが出来ず、ピストン運行による二段構えの送迎になった。参加教員は、本課程の日本語教員ほぼ全員の16名である。

以下に、事前に説明した文書からゲームのルールや諸注意を示す。

「ルール ①同じ班の人と一緒にある歩きます。②1～7の場所に先生がいます。先生に印（はんこ）を押してもらいます。③昼休み（11：30～



12:30) は、印を押しません。④集合の時間に遅れたら、3限目を欠席にします。(班全員) ⑤順番通りに全て回らないと、先生は印を押しません。また、印が全部押していない場合、集合の時にプレゼントがもらえません。」<sup>1)</sup> 参加教員には約1時間交代で各地点に立ってもらい、学生にはできるだけ声をかけて会話をしてもらうようにした。ゴール後に、4種類の缶ジュースあるいはお茶から好きなもの1本を取らせ、それをプレゼントとした。

少し汗ばむ初夏の天候の下、事故もなくほぼ時間通りに帰着した。以下にその後のアンケート結果とその他気づいたことを述べる。

「こういうオリエンテーリングはストレス解消やいろいろな人との触れ合いができる。今回は日本語を伸ばす手助けになり、今まで話したことのない人と友達になれた。とても楽しかったが、少し疲れた。」この意見は好意的な感想の内容を代表している。有益だったという感想がある一方、次のようなものもあった。「場所が遠くて疲れた。おまけに他の人(日本人)と話す機会が少なかった。地図を見ればわかるから。印をもらう代わりに、その場所々にタスクがあれば良かった。そうすれば、もっと日本語を使う機会が増え、面白くなると思う。」など。他の感想やアンケートの数値を見ても、今回のゲームは簡単すぎたようだ。

また、「今回のオリは、留学生にとって素晴らしい活動だと思う。でも、できることなら次は湯布院などの面白い場所に行きたい。例えば、その土地のことをよく知ること、景色の美しい所、大分の地域色のあるところに行つて、大分のことをよく知りたい。」という意見もあった。ぜひそう

いう場所へも連れて行きたいと、秋には大分の景勝地へ行く計画を立てた(Ⅲ参照)。

この時の移動方法については多少問題があった。バスのピストン運行のため、1回目の出発時間が遅れてしまい(バスのせいではない)、その影響で2回目の出発が遅れた。また帰路も集合は早かったのに、現地で解散した学生を捜してしまったりして時間を無駄遣いし、2回目の学生たちの数名が講義に遅れてしまった。この活動の移動方法としては、全員が同時に到着できるようにすべきであったと思う。

もうひとつ、このゲームを予想以上に競争感覚でとらえ、団体で走り回った学生たちがかなりいたことに驚いた。事前に時間内に戻れば良いということ伝え、担任から道路上でのルールやマナーなどを聞かされていたはずだが、急ぐために団体で歩道を走り、無謀な道路横断をしたグループもいた。1位になったグループはゴールに走りこんできた。途中も走ってきたのだろう、皆汗だくで息も荒い。しかし1位になったことを知って大喜びして、大声をあげた。これほどの競争意識が働く理由はまだわからないが、こちらの意図とは違う結果になってしまったことははっきりしている。ルール設定や説明方法について、再検討の余地があるだろう。



### Ⅲ 日田・耶馬溪バス旅行～別府大学国際交流会と～

「景色の美しい所、大分の地域色のあるところに行つて、大分のことをよく知りたい。」(前出)という学生の意見を受け、秋は日田市豆田町・隈町そして下毛郡耶馬溪町・本耶馬溪町で、大分県

1) 大分市中心部オリエンテーリングの「探検カード」から引用。

の観光地、紅葉、歴史的町並みの見学を目的としたバス旅行を実施した。今回の参加者は約125名。学科等を問わず6～7名ごとの18グループに、本学の学生で構成される国際交流会のメンバー5名と日本語教員13名の計18名が引率をした。事前に、日本事情の講義で目的地の地理や歴史について教え、教員と国際交流会学生に対しては地図や観光パンフ等を配布し、どのような施設を利用するかを検討しておいてもらった。また車中で流す音楽を工夫し、日本語が聞き取りやすくして学生に人気のある曲を用意した<sup>2)</sup>。

2002年11月20日(水)、9:00出発、日田(咸宜園)着後、豆田町を班ごとの自由行動で散策し、12:00に隈町にある亀山亭ホテルで再集合し昼食。14:00耶馬溪に到着。一目八景で紅葉見学したかったが、今年は紅葉がもう終わっていた。次に青の洞門へ。ここにはまだ紅葉が残っていてほっとする。16:30予定通り別府大学正門着。今回も無事帰着した。

この秋の旅行では、バスを貸し切って同時に移動することができた。また、豆田町と隈町を試験的に運行する日田市の循環バスに、市のご好意で乗せていただくことが出来たので、快適な旅だった。町を散策した学生の1番人気は、試食や試飲ができる店だ。豆田町にはあちこちにそういう店があって、筆者も詳しいつもりでいたが学生たちに行くつかの店を教えられた。どうも携帯電話で連絡を取り合っていたらしい。もちろん、試食、試飲ばかりではなく、羊羹や味噌や日本酒などを土産に買う学生もいた。ここは雛人形の町としても有名で、あちこちで雛人形を鑑賞でき、江戸時代などのやや古い建造物や街並みも見学することができた。そして昼食のお膳にのって出てきた和食には、「おいしい」という声があちこちからあがっていた。多くの者が食後、秋日をまばゆく照り返す三隈川のほとりに出て、川を眺めたり教員や友人と写真を撮ったりしていた。こういう時の笑顔は、日ごろ教室ではなかなか見ることができない。ホテルや店々の方とのやりとりも楽しそうだった。担当の教員や国際交流会のメンバーとも始めはやや緊張していたものの、一緒に歩くうちにお互いに少しずつ気持ちがほぐれていったよう

である。

このバス旅行の感想には「楽しかった」というものが圧倒的に多い。前回のタスクのある学外活動と単純に比べることは難しいが、留学生の満足度は非常に高かった。日ごろ出席状況が良くない学生も参加して、欠席者がほとんどいなかったことから、このような学外活動が必要とされていることがわかる。

#### IV より適切な日本語教育を目指して～課題と展望～

今まで述べてきた各学外活動において、重要な要素として考えたのは、日本語と日本文化の勉強になること、学生と教員とその他の日本人との交流ができることである。実施してみると、後者の要素を満たすことの方が難しいことを実感した。目指すところは、消極的な留学生も日本人との交流がたっぷりできるような学外活動である。が、現実にはチャンスを与える程度のものであって、この活動中、日本人とまったく接触していない者もいたと思われる。留学生といっても、国もさまざまなら人もさまざまであって、友好的・積極的な人ばかりではない。心の中では日本人と接して日本語を使って話したいのだが、なかなか実行できない人もいる。そういう留学生も、自然に日本語で日本人とコミュニケーションをとれるような学外活動がしたい。できれば大分の美しい環境の中で、大分の土地と人と歴史を感じながら。

最後にこれらの活動は、本課程日本語教員及び関係者の留学生への愛情と熱意に支えられて実現した。このことを感謝とともに記しておきたい。



2) 平井堅「大きな古時計」、花\*花「さよなら大好きな人」、五輪真弓「恋人よ」など。